



大会宣言 (案)

本日、JR東日本輸送サービス労働組合八王子地方本部三多摩支部は、オープンイノベーションフィールド多摩八王子館において第6回定期大会を開催し『輸送サービス労組運動への「共感」から「共創」へ すべての仲間と共に、社員・利用者の声から安全で働きがいのあるJR東日本を創りだし、心の豊かさを実感できる未来を切り拓く』ことを満場一致で確認した。

JR東日本会社は、会社発足から「安全」を経営の最重要課題に掲げ「究極の安全」を目指し取り組んできた。しかし効率化ありきの施策が矢継ぎ早に実施された結果、公共交通の使命を果たせず、利用者を置き去りにした施策が散見している。命を運ぶ使命ですら繰り返される事故・事象、設備の不具合、輸送障害が多発する中、関係社員の命まで奪われるほどに安全は低下している。現場の意見を聞かず、原因究明もせず、個人の責任に切り縮め企業責任を果たしていない。この企業体質に対し、労働組合として警鐘を鳴らし糾していかなければならない。「新たなジョブローテーション」施策は、実態調査中間報告が明らかにしたように、安全性の低下をはじめ多くの問題を孕む人事・要員施策であり、直ちに撤廃することを強く求める。

また、『みどりの窓口』の閉鎖や京葉線における快速列車の本数削減は批判の声が相次ぎ、凍結・見直しが発表される異例の事態となっている。7月4日、突如として夏季繁忙期の販売期間における「みどりの窓口」の臨時窓口開設や、窓口数の増設が発表された。常態化する要員不足を改善することなく、現場に新たな負担を押し付け、施策の失敗を覆い隠し、^{ひぼう}弥縫策を繰り返す経営姿勢は認められない。この間三多摩支部として、これからの駅を考える会議を3回開催し、駅職場における安全とサービスにおける問題を議論してきた。すべての利用者の声から安全で満足できるサービスを提供できる【今後の駅のあり方】について、全組合員での討議と実践で具体策をつくりだすことで、公共交通の使命を我々の手で果たしていこう。

2024年度賃金のベースアップの取組みは、各分会からの創意工夫された運動で過去最高水準の賃金引上げを勝ちとった。一方、会社が提案権を行使してまで行った新賃金と夏季手当の同時交渉により夏季手当は低額に抑えられてしまった。夏季手当の補給を求め、三多摩支部全分会から本部交渉団に職場の怒りや不満の声を訴えてきた。団体交渉が行われるも、会社は「補給する考えはない」と回答し対立となった。現場で奮闘する労働者を蔑ろにし、還元を行わない経営姿勢は容認できない。現在、融合と連携や統括センター化などによって労働の複務化が進められている。正当な評価と還元を求め、堂々と年末手当に向けた議論を職場からつくり出していこう。

会社による脱退勧奨・強要を明らかにするために4年4ヶ月におよぶ脱退パワハラ訴訟は、控訴棄却・一審判決維持となり、脱退勧奨の組織的関与は認められなかったものの、管理者の行為は不当労働行為であり、会社の使用者責任が認められ、あったことをなかったことにはさせなかった。4名の仲間と共に勝利したことを全組合員で確認しよう。一方、JR東日本八王子駅パンフ配布処分事件は都労委救済命令を履行せず、会社が不服として中労委での審議を継続している。そのような中、水戸地本内でのジョブローテーションアンケートの配布を職場で行った正当な組合活動に対して処分を出した。八王子地本内でもラストランをめぐり、「おかえりなさい」「お疲れさまでした」と労いの言葉をかけた行為に対し、組合活動と決めつけ一方的に恫喝とも取れる職場規制を行う行為が発生している。職場活動に対する萎縮を狙った規制を強める会社姿勢を許さず、当たり前前の組合活動を堂々と展開したたたかいを強化していくため、JR八王子駅パンフ配布処分事件と八王子支社組合員差別事件の勝利を目指し、健全な企業を取り戻すために組合員と共に運動をつくり出そう！

三多摩支部は結成5年目の節目である今、輸送サービス労組運動への共感確実に広まっている。すべての利用者の声から安全で満足できるサービスを提供できる「今後の駅のあり方」の実現に向け、地域や利用者、JTSU 議員懇談会との連帯をさらに強化しよう。そして、誰もが安心して働き続けられるJR東日本グループを実現するために、「職場活動」「日常活動」にこだわり、輸送サービス労組運動を大きく前進させ組織強化・拡大を実現しよう！

以上、宣言する。

2024年7月28日
JR東日本輸送サービス労働組合
八王子地方本部三多摩支部
第6回定期大会

日常の「職場活動」にこだわり、輸送サービス労組運動を大きく前進させ、誰もが安心して働ける会社を取り戻そう！